

目指す学校像	～潤いと活気と感動のあふれる学校を目指して～ 希望の登校 満足の下校
--------	------------------------------------

重点目標	1 自主的に学ぶ姿勢や態度の育成と、ICT機器を活用した授業づくりの推進 2 安心・安全な学校に向けた教育支援・相談体制連携と安全に配慮した学校行事の実践 3 学校運営協議会と連携して、学習や部活動指導における人材を確保し、準備会議を開催 4 教職員の「和」を高め、組織力の向上と授業力の向上及び、校務のScrap and Buildの推進
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和5年3月3日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、数学ともに全国、市平均と比べ全教科下回っているが、近づきつつある。 ○日頃の学習の様子から、学習に対する意欲は見られる。授業で学習した後のミニテスト等は正答率も高いが、翌日以降に復習すると、定着していないことがよく見られ、家庭学習が不十分である生徒が多いことがわかる。 ○ICT機器は積極的に活用しようとしている。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の「読むこと」及び数学の「数と式」「図形」等について課題が大きい。また、国語、数学ともに、無回答率が高く、苦手な問題には手を付けようとしていない様子が見られる。 ○国語、数学ともに知識理解について課題が大きい。昨年度に比べると改善の傾向が見られる。	自主的に学ぶ姿勢や態度の育成	①「授業づくりのあたり前」を策定し、授業、学習に取り組む際の姿勢づくりを徹底し、学習する習慣を身に付けさせる。 ②放課後学習会の通年実施と定期試験前の放課後学習を実施し、学習のポイントを正しく把握できる力を育成する。	①「授業づくりのあたり前」を生徒に徹底し授業規律の向上と、生徒の学ぶ姿勢の向上に繋がり、学習の定着度が向上したか。定期試験平均向上1、2学期比較5%以上 ②スタディサプリ等を活用した家庭学習の習慣の定着度5%以上	・「授業づくりのあたり前」について検証している。定期試験平均点は、1、2学期比較5%近く向上したが超えるものではなかった。 ・スタディサプリ等は、長期休業での活用が主となり、家庭学習の習慣は向上したものの、スタディサプリ等の活用は少なかった。	C	・「授業づくりのあたり前」の検証結果を踏まえ、修正を加え全校に示し、定着を図る。 ・タブレット PC の家庭への持ち帰りとスタディサプリ、ドリルパーク等の家庭学習での活用を促進し、家庭学習の習慣化と学力の向上を図る。	・自主的に学ぶ姿勢や態度の育成と、ICT機器を活用した授業づくりを推進していると評価できる。 ・生徒に身につけさせたい学力について明確化すると、さらに効果的になるのではないかと考える。 ・学力の課題を認識し、解決のために努力する意欲を身につけさせることが必要である。気づきのためのICT機器を活用した学習の有効性を理解できるよう助言を行う。 ・スタディサプリ等での振り返り学習を積極的に実施し、身につけていない学習について、自分から取り組むことができるように指導する。
		ICT機器を活用した授業づくりの実践	①国語、数学を中心に、ドリルパーク、スタディサプリ等の学習への取組状況を基に学習相談を実施し、生徒が目標をもって学習できるように指導する。 ②全国学力・学習状況調査について、生徒が自己採点を行い、その結果を情報端末上のシートに入力することで生徒が自らの学習状況を把握できるようにする。	①各学期に2回以上二者面談を実施し、ICT機器を活用した学習への取組状況を確認し、必要な助言を行ったか。 ②生徒が自己採点の結果をもとに、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向けて行動できるようになったか。	・各学期2回以上の二者面談を実施し、ICT機器の活用による学習についてアドバイスを行った。家庭学習方法の改善に取り組んだ約60%の生徒は家庭学習の習慣が向上した。また、全国学力・学習状況調査の自己採点及び結果から自身の学習状況、課題等を把握し、二者面談による改善の助言等を受け、定期試験等に向けて目標を立て計画的に学習に取り組む生徒が約58%となった。	B		
2	(現状) ○学校評価アンケートにて学校生活が充実していると答えた生徒は96.2%であり、多くの生徒は学校生活が充実していると考えている。 ○昨年度は、施設設備の不備によるケガ等はなかったが作業道具の使い方の間違いでけがをしたり、不十分な片付けを原因とする、窓ガラスの破損があった。生徒にけがはなかった。 (課題) ○昨年度までの2年間、コロナ禍により学校行事が大きく縮小・中止され、楽しみにしていたことができなくなったり、生活が単調に感じられるなど、生徒がストレスを感じる機会があり、心の変化に素早く気づき、適切に寄り添う体制をより強化することが必要である。 ○安全点検の徹底と、危険箇所への対応、生徒の「危険を察知する目」による危機回避力の育成	生徒一人ひとりの変化に気づき適切に寄り添う相談・支援体制の連携	①生徒指導部と教育相談部が連携し、生徒一人ひとりの様子を全職員が把握理解し、それぞれが適切に対応する。 ②心と生活のアンケートの他独自アンケートを各学期に実施する等、生徒の心の変化に素早く対応できる体制を整える。	①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上になったか。 ②学校自己評価に係る生徒アンケート、保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。	・「生徒指導部と教育相談部が連携し、生徒一人ひとりの様子を全職員が把握理解し、それぞれが適切に対応する」に関連する教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上になった。 ・生徒アンケート、保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が約94%となり90%以上となった。	A	・職員全員が、一人ひとりの生徒の変化に気づき、家庭へ寄り添う指導を徹底し、適切に対応する力を育成する。 ・各種アンケートの実施及び、「狙いのある雑談」の積極的な推進し、生徒の小さな変化を見落とすことのない教員の育成を図る。	・安心・安全な学校に向けた教育支援・相談体制連携と安全に配慮した学校行事の実践を推進していると評価できる。 ・教職員と生徒との距離が近いと聞き、とても良いことだと思った。 学習、部活動の質の向上には、日々の生活から見直すことが重要である。小学校との連携を大切にしたり取り組んでほしい。 ・あいさつがしっかりとできる生徒、学力向上に取り組む生徒が多くなっていることを理解できうれしく思う。
		安全に配慮した教育活動の実践	①安全点検の実施の徹底。施設及び用具の破損や保管方法等の確認を徹底する。 ②安全な使用方法の確認、指導を徹底する。用具利用時の安全を確認する。 ③災害発生等緊急時の対応を徹底する。	①生徒アンケートにおいて「安全を考えて行動することができた」と回答する生徒の割合が90%以上になったか。 ②教員による学校評価「安全点検による教材教具の見直しをすることができたか」肯定的な回答80%以上となったか。 ③避難訓練後評価で「誘導及び避難方法が適切である」の肯定的評価80%以上	・定期的な交通安全及び「折り鶴運動」また、安全委員会による「けがマップ」作成等により、生徒アンケートでの「安全を考えて行動することができた」において肯定的な回答が90%以上になった。 ・教員による学校評価「安全教育」に係る評価において、肯定的な回答が80%以上となった。 ・避難訓練前に連絡体制の確認、荒天予報時の施設点検、安心メール送信等徹底した。	B		
3	(現状) ○昨年度の学校運営協議会準備委員会の中でも学校・地域・家庭の連携の大切さを共有した。3者のより密な連携を図るため、生徒の活動を学校の内外よりサポートするために、活動を知ること及び人材の確保が必要であると共通理解した。 (課題) ○上記を把握した上で活用し、機能させる組織作りをする必要がある。また、その運営のために必要な活動と、方法について方向性を出し、関係者に協力を得られるよう働きかけをする必要がある。	学校運営協議会と連携して、学習や部活動指導における人材の発掘	①本校にどのような人材が必要かを協議し、学校運営協議会委員のネットワークを活用し、人材の把握をする。 ②地域近隣の学校等と連携し、趣旨を説明し協力を要請する。	①学校運営協議会に係るアンケートで「コミュニティ・スクールの一員として目指す生徒の姿を共有できた」と回答する割合が80%以上となったか ②近隣各校と意見交換を行い、人材確保への理解が70%以上得られたか。	・第3回学校運営協議会にてアンケート実施予定。 ・近隣各校学校運営協議会及び学校評議員会にて本校の人材確保について意向を伝え、必要性について理解を得た。今後アンケート実施予定。	B	・柏陽中学区の生徒が地域を大切にし、地域が温かい目で生徒を見守る体制をより向上させるために連携を図る。連携のために「できること」「できる人」「できる場所」の共通理解を図る。	・学校運営協議会と連携して、学習や部活動指導における人材を確保し、準備会議を開催していると評価できる。 ・地域との交流では、各地域の情報等を素早くキャッチして、行事に参加してほしい。 ・学力向上や部活動の成績向上も大切である。そして子どもの笑顔が一番大切をお願いする。 ・今後も小中高の連携が取れるようにしたいと思う。
		人材活用のための準備会議及び意見交換	①実際の活動について、依頼する人材の選定会議を行い、本人に趣旨の説明と協力要請を行う。 ②本校生徒の活動への協力等についてどのように受け取っているか広く意見を集める。	①準備会議において本校教育活動への協力、人材確保への共通理解を80%以上得られたか。 ②部活動地域移行会議を実施し理解を得られたか	・PTA会長、前PTA会長、地元自治会長、地域スポーツ指導員等による準備会議を開催し、理解を得た。学校だよりによる広報活動を行った。 ・教育活動への協力、地域行事との連携、部活動外部移行への協力等、地域人材の発掘への積極的な呼びかけを行い、紹介を得られ面談等を行った。	B		
4	(現状) ○一人ひとりの授業力を高めるため、ICT機器を活用した授業の充実について、エバンジェリストを中心に研究を重ねている。 ○様々な校務による授業準備が時間外に行われ、勤務時間の超過防止の妨げとなっている。 (課題) ○ICT機器の取扱スキルについて教員個々の差が見られる。ICTに抵抗なく扱うための研修体制の整備と教え合いの姿勢の育成が必要である。 ○勤務の削減のため、校内情報のデータベース化と、電子データ化を図り、必要な情報の一元化とその更新及び、操作の共通理解を図る必要がある。	授業におけるICT機器の活用方法について、研修会を実施情報の電子データ化を図るとともに、その際の役割分担を適正化の実施	①年間計画を見直し、ICTをどのように活用できるかを想定し、マークを入れる。 ②エバンジェリストを中心に、ICT機器活用研修会を毎月一回実施する。 ③生徒一人ひとりの情報を学級ごとに校務PCに入力し、項目ごとに学級、学年、全校で集計できるようシステムを整える。 ④生徒情報の入力の際、担任だけでなく全体で分担し、その分担を明確にする。個人情報ファイルにパスワードを設定する。	①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。 ②教員アンケートで、「研修を通しICT機器の活用スキル向上を図ることができた」で肯定的評価80%以上となったか。 ③教員アンケートで、「生徒情報入力で約半分を果たせたか」で肯定的評価80%以上となったか。 ④教員アンケートで、「情報のデータ化により校務の軽減をはかれたか」で肯定的評価80%以上となったか。	・ICTの活用について頻度の差があるが、全ての教員が活用した。 ・インターネット、パワーポイント、動画撮影・視聴、アンケート機能、ムーブノート等教科・単元の特性に合わせて活用する機会が増え、ICT機器の活用スキル向上を図ることができた肯定的評価80%以上となった。 ・生徒の各種情報及び校務の情報について、分担にて、データ整理及び会議資料作成を行い、80%以上が情報のデータ化により校務の軽減を図ることができた肯定的評価をした。	B	・ICT機器の効果的な活用で、生徒の学習の理解の向上を図る。また、校務の合理的な取り組みを行い、時間外在校時間の削減を図る。ミライシード、Teamsなどを活用した学習、パワーポイントを活用した授業、エクセルを活用した校務処理等、機器を活用する力の向上を図る。 ・家庭との事務的なやり取りについて、アンケート機能等の活用を図り、互いに都合のつく時間で、必要事項の処理をすることができるようにし、在浩時間短縮の工夫をする。	・教職員の「和」を高め、組織力の向上と授業力の向上及び、校務のScrap and Buildを推進していると評価できる。 ・「よい授業」とは何か、教員と生徒と一緒に考える文化ができることと授業力の向上につながると思う。 ・教員の負担軽減には、管理職のコントロールが重要である。先生方が安心して働けるようコントロールしてほしい。 ・Scrap and Buildの具体例が示されるとよい。